

2011年度 ジェンダーと災害復興 台湾調査について

陳来幸（兵庫県立大学）

【調査期間】 2011年11月2日～11月9日

【調査目標】

*2010年度調査の結果を踏まえ、台湾の自然災害におけるジェンダーに関連する課題を抽出する。

2011年度調査は高雄で2009年に発生した八八水害の実地調査を重点的実施する。九二一地震調査は、ジェンダーの課題についてヒアリングの追調査、都市部調査を実施する。

・921大地震（台湾集集大地震）：1999年9月21日発生したマグニチュード7.3の地震により、南投県、台中県を中心に台湾中部の都市、農村、山岳部に大きな被害をもたらした。（死者2415人）

・八八水害（莫拉克台風水害）：2009年8月7～10日にかけて大量の雨を降らせた莫拉克台風により、高雄県や屏東県を中心に台湾南部地域に大きな被害をもたらした。（死者677人）

*2011年度のヒヤリングは八八水害の復興関連について行い、921震災については、台中県東勢鎮（現在は台中市東勢区）を中心とする都市部調査を実施する。

*引き続き、台湾の大学・研究機関との連携づくりを行うとともに、国際機関や研究者との国際交流ならびに国際連携を推進する。

【実施内容】 ヒアリング対象者27名

その他現地協力者、研究者等約20名との関係構築

中央研究院社会学研究所における研究交流会

2011 APEC ACTS Forum への参加

【二つの被災地区の復興状況調査から得られた知見】

① 多元文化に対する社会的承認の定着

もとの小林村五里埔に再建された永久屋には平埔族としてのシラヤ族アイデンティティが色濃く反映されている。921被災地客家地区の小学校建設にも客家アイデンティティが強烈に表現されている。

② 女性のリーダーの登場と活躍

八八水害では高雄市重建会執行長と副執行長のいずれも女性が就任し、副執行長には先住民族（原住民族）からリーダーが生まれた。その後、執行長は高雄市初の客家委员会主任にしている。

③ 被災者への支援体制の不公平感

漢民族から聞かれる、先住民族（原住民族）への政府の特別扱い（家屋美化10万元補助や年金受給資格等）に対

する不満。

④ 宗教団体・国際NGOの役割

慈濟、ワールドビジョン、赤十字三大支援組織・仏光山、法鼓山などの支援方式に関する世論の形成とより良い方式への誘導

⑤ その他